

## 二十五三昧会

# 「ランチで三昧」のお知らせ

# 10月13日(金)

11:45 頃～14:00 頃

(会場は 10 時～16 時まで開いていますので、早く来て遅く帰ってもOKです)

老後のこと、介護のこと、人生の心配ごと——いろいろあると思います。専門職の方も来られています。一緒にご飯を食べて、おしゃべりすれば道が開けるかも。

今月の予定——NHK ドキュメンタリーをみんなで見よう

ありのままの最期

末期がんの“看取（みと）り医師” 死までの450日

始まりは2年前の12月。末期のすい臓がんで余命わずかと宣告された医師がいると聞き、取材に向かった。田中雅博さん（当時69）。医師として、僧侶として終末期の患者に穏やかな死を迎えさせてきた「看取りのスペシャリスト」だ。これまで千人以上を看取った田中さんの「究極の理想の死」を記録しようと始めた撮影。しかし、次々と想定外の出来事が…。看取りのスペシャリストが見せてくれたありのままの最期、450日の記録。

**田中 雅博**（たなか まさひろ、1946年 - 2017年3月21日）は、日本の医師、僧侶。栃木県芳賀郡益子町の西明寺で生まれる。父親の勧めで医師を目指し、東京慈恵会医科大学を卒業。国立がんセンターで研究所室長、病院内科医として勤務。大正大学に進学し、仏教を7年間学び、西明寺を継いだ。住職を務めながら、1990年、境内に入院病床を備えた（緩和ケアもおこなう）普門院診療所や介護施設を建てた。2014年10月、末期の膵臓癌が発見された。その後肝臓に転移。30年間「病院にもスピリチュアル・ケアワーカーが必要」と訴え続けた。2017年3月21日、死去。70歳没。

\* 専門職の方も参加されますので、ちょっと相談にのって欲しいことがある方はお気軽にご相談ください。

\* 「ランチで三昧」の食事希望の方は、10/11（水）16時までに申込下さい。072-793-0203